

Fenestra

京大西洋史学報



第 6 号 (2022 年 4 月)

京都大学大学院文学研究科
西洋史研究室

フェネストラ

京大西洋史学報

第6号 目次

論説

服部良久

コンスタンツ公会議（1414-1418年）における「うわさ」と「公共圏」 - 1 -

山内暁子

「骨」と犠牲式..... - 12 -

動向・紹介

林祐一郎

難民一族の「桎梏」と「訣別」

——プロイセン・ユグノーの史劇『ロラン家』を観る—— - 21 -

書評・新刊紹介

福嶋千穂

Larry Wolff, *Disunion within the Union:*

The Uniate Church and the Partitions of Poland..... - 27 -

新田さな子

G. W. Bernard, *Who Ruled Tudor England: Paradoxes of Power* - 34 -

伊藤直之

ファニー・コザンデ、ロベール・デシモン著（フランス絶対主義研究会訳）

『フランス絶対主義——歴史と史学史——』 - 42 -

川崎紘子

甚野尚志編『疫病・終末・再生——中近世キリスト教世界に学ぶ——』 - 50 -

西洋史研究室の現在

時代別演習と専任教員の講義..... - 52 -

大学院生の研究..... - 58 -

編集後記

《表紙解説》ジョン・ノックスの家の窓

エディンバラの目抜き通りであるロイヤル・マイル。エディンバラ城とホリールードハウス宮殿を結ぶこの通りに、「ジョン・ノックスの家」はある。言い伝えによれば、スコットランド宗教改革の指導者であるジョン・ノックスは、1572年11月に死去するまでの数か月間をこの場所で過ごした。実際に彼が居住したかは定かではないが、エディンバラ最古の建物のひとつとして、またスコットランド宗教改革の歴史を今に伝える資料館として、今では多くの観光客を集めている。数百年に渡って増改築を繰り返したために外見はやや歪だが、1470年に建築された当初の姿を部分的ながらも保っている。ノックスは2階の張出窓（写真中央右）から身を乗り出し、大通りに向けて説教したと言われている。この小さな窓は、彼とエディンバラ市民を繋ぐ「窓」だったのかもしれない。

1階の上縁には「Lufe God abufe al and yi nychtbour as yi self」と刻まれているが、これは『マルコによる福音書』12章30-31節にあるイエスの言葉をスコットランド語に訳して縮めたもの。セント・アンドリュース大司教であったジョン・ハミルトンによる16世紀の翻訳で、英語では「Love God above all and your neighbor as yourself」となる。この金色に縁どられた装飾はジェイムズ・モスマンとマリオタ・アレス夫妻が施したらしい。モスマンはカトリック教徒でメアリ1世お抱えの金細工職人であったが、1572年に財産を没収されると、女王党の立てこもるエディンバラ城がジェイムズ6世（ジェイムズ1世）率いる国王党の手により陥落した後、他のメアリ支持者と共に絞首刑に処された。1573年8月3日のことである。モスマンがあの小窓から見た景色は、彼を排除しゆくエディンバラの街並みだったのであろう。

編集後記

コロナ禍で世界の閉塞感は極まったと思われていたところに、去年から続く緊迫したミャンマー情勢や、今年3月に勃発したウクライナとロシアの間の戦争など、次から次へと人類は難題を突き付けられ、少し前の諸問題が、解決したわけではまったくないにもかかわらず、優先順位を下げられ、忘れられていきます。ものごとを無限に記憶することはできませんし、マルチタスクにも限度がありますから、致し方ないとはいえ、それでも、いたたまれない気持ちを持つて余すばかりです。

そのような現実を生きつつ、私たちは過去の西洋の歴史に向き合っています。今号に掲載された論説や動向・書評、そして院生たちの研究紹介が、西洋史という切り口から書き手自身や読者が直面する「閉塞」に風穴を開ける「窓（フェネストラ）」であったらと切に願います。ぜひご味読ください。

(金澤)

2022年5月6日発行 非売品

『フェネストラ——京大西洋史学報——』（第6号）

発行者 京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科西洋史研究室

電話 075-753-2791